

読み比べて考えよう

監修

畑綾乃

ある文章で他者の意見や主張を読むことで、新たな気づきを得られるということはありますが、もしかしたらその文章の意見は偏ったものかもしれません。生活の中でも、人の意見を参考にするとき、何人かの意見を聞いた方がしつかり判断できるということがあります。意見文を読むときにも、異なる複数のものを読むことで、ものごとを多面的に見て、自分の考えを深め、位置づけることができます。ここでは、その読み比べの視点を学んでいきましょう。

学習のポイント

- ① 読み比べの視点
- ② クリティカルリーディングに挑戦
- ③ 自分の意見を位置づける

テーマについて、自分の意見を確認しよう

あるテーマについての文章を読む前に、今の自分はどんな意見を持っているのかを考えてみましょう。そうすることで、自分の意見と照らし合わせながら読むことができます。今回のテーマは「エスカレーターは止まって乗るべきか、歩行も認めるべきか」です。いおりさんは「歩行NG派」で、しゅうせいさんは「歩行OK派」です。あなたは今、どう考えますか。二人のように、そう考える理由も言えるとなおよいでしょう。

主張の異なる二つの文章を読み比べて、自分の意見と照らし合わせよう

【A】・・・「エスカレーター 歩かず立ち止まろう」キャンペーンの紹介文

【B】・・・「エスカレーターのマナーについて」の考えを書いたブログの記事

まず、この二つの文章を読み比べます。それぞれ順に読んで、どのような印象を持つでしょうか。ここではそれを印象で終わらせず、詳しく読み比べをします。読み比べのための内容整理のポイントは、次の三つです。これらを表にして文章を整理しましょう。

- ① 誰から誰にどんな目的で・・・意見が発信されている枠組み。出所や発信者の立場など。
- ② どんな主張を・・・そのテーマに対する意見の骨格。ざぱり「結論」となる内容。
- ③ どんな根拠で・・・その意見の理由・根拠「なぜそのように考えるのか」ということ。

各文章をこの三つのポイントに分解して比べます。Bの文章では、二人も①のまとめ方に悩んでいますね。特にブログなどは発信の目的が不明瞭ですが、発信の目的は何だろう、と一度立ち止まって考えること自体が、情報を受けとる上でとても大切なことなのです。

次に、表や文章中の同意する部分、反対だと思う部分に色分けをして印を付けましょう。これは、クリティカルリーディング（分析的読解）の一つの方法です。分析的に読むことは、多面的、客観的な読解につながり、自分の意見をより明確にすることができます。

文章を引用しながら、自分の意見を発表しよう

最後に、読み比べをした後の自分の意見まとめて発表します。「①結論から先に述べる、②文章から必ず一箇所以上は引用をする」という形で行います。引用の仕方にも、理由説明を補強する、反対意見に部分的に譲歩する、自分の意見と対比的な点を強調する・・・など様々な方法があります。二人の発表を参考に、みなさんもチャレンジしてみましょう。

※一部の自治体では、エスカレーターで立ち止まることを条例で義務付けています。

エッセイ

コップ半分の水

畑綾乃

観に行く映画を決める、ネット上で買い物をする、恋愛や進路で悩む…、日常生活でも他の人の意見を知りたいと思う場面は多々あるもの。そんな時、ひとりの友人の意見が参考になることもあるが、やはり複数の意見を聞きたいと思う人も多いだろう。いろいろな人の意見を参考にすることを、人は何かとやっているものだ。

文学者のバーナード・ショーが、グラスに入っているワインを見て、「ああ、もう半分しか残っていないと嘆くのが悲観主義者で、お、まだ半分も残っているじゃないかと喜ぶのが楽観主義者で、このグラスは必要な大きさの二倍あると言うのが合理主義者だ。」と言ったというエピソードがある。また似たもので、水が半分だけ入ったコップをどのように捉えるか、という話がある。経営学者P・F・ドラッカーのいわゆる「コップの水理論」で、『半分入っている』から『半分空である』に認識を変えるとき、大きなイノベーションの機会が生まれる。」というもの。これは、経営やマネジメントの文脈でよく引かれる。読み比べについて考えていたときに、この二つの話をふと思い出した。ワインや水が半分入ったグラスやコップに対して様々な捉え方をするこゝとができるように、ひとつの物事は、人により時により、様々に捉えられるものだ。

「水が半分入ったコップ」を、「もう半分しかない」という人の意見を読んで、「ほんとだこれっぽっちしかないなんて…」と悲嘆に暮れて終わる、というのではなく、「本当にそうかな？違う見方もあるのではないかな？」と考えながら読むこと、これが「クリティカルリーディング」である。一つの視点にとらわれずに物事を冷静に、客観的に見る事ができる。さらに、そこから他に複数のものを読むことで、「半分もあるから十分満足だ」「半分しかないからこ自分で注ぐ余地がある」「このコップは大きすぎるよね」「水は半分でよい、あとはジュースを飲みたい」「今は半分でいいけれど、運動の後なら足りないな」といった多様な意見が見つかるかも知れない。これが読み比べだ。多様な視点や考え方を手に入れて、物事を多面的に見て深く考えることができる。そしてその中で、たまに立ち止まって「自分はどうか考えるか」と自分に照らし合わせて思考することで、自分の考えをより深いもの、より明確なものにすることができる。この、クリティカルリーディングと読み比べの姿勢や力は、多様な価値観のせめぎ合う世の中を生きる上で、自分を支える大きな柱となってくれるだろう。

今回の番組では、いおりさんとしゅうせいさんが「コップの水」ではなく「エスカレーターでの歩行」について読み比べて意見を発表する活動にチャレンジした。複数の意見を読み、真剣に価値付けていくことは、とてもエネルギーのいる作業だ。「難しかったけど自分の意見がクリアになった」と、いおりさん。「最初はふんわりした状態だったけれど、読み比べて何がダメで何がいいか、自分の思考を理解できた」と、しゅうせいさん。読み比べは、テーマとなる物事を多面的に見る機会となると同時に、他者の考えを鏡として自分自身を多面的に照らす機会ともなる。つまり、自分をより深く見つめる機会となるものなのだ。